

令和元年度

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」

研究開発実施報告書（第1年次）

福井県立鯖江高等学校



## 活動の記録



吉川なすの収穫体験



吉川なすを使ったレシピの開発



地学基礎 特別授業



世界津波の日高校生サミット



子どもの発達と保育 出前授業



音楽 特別授業



誠市での民族音楽の発表



音楽鑑賞講座



数学 特別授業



課題解決型学習 報告会



校内教員研修会



運営指導委員会

## 目次

・ ビジュアルシート・活動の記録	
・ はじめに（鯖江高等学校長）	1
・ 研究開発報告（文部科学省提出書類より）	
研究開発完了報告書（抜粋）	3
目標設定シート	9
・ 研究開発の概要	
学校の概要	10
教育方針・努力目標	
在籍生徒一覧・出身中学別一覧・進路状況	
令和2年度　学校再編について	
教育課程　　令和元年度（1年生, 2年生, 3年生）	
令和2年度入学生（3年間）	
研究開発概要（文部科学省提出資料）	17
ロジックモデル	19
地域協働事業組織図	20
鯖江高校における探究学習の流れ	21
令和元年度 地域協働事業 年間スケジュール	22
・ 具体的な取り組み内容	
鯖江市・鯖江商工会議所・鯖江高校 三者連携協定の締結	23
1年「総合的な探究の時間」の取り組み	24
実施報告書（福井県教育委員会提出資料より）	
具体的な内容について	
外部講師による活動（各教科・部活動での取り組みなど）	26
運営指導委員会報告	27
その他の取り組み	36
「「世界津波の日」2019高校生サミット in 北海道」への参加	
「課題解決型学習モデル開発事業」への参加	
マスコミの取材状況	36
・ 資料	
地域協働ニュース（第1号～第11号）	37
地域協働だより	49

## はじめに

研究開発名を「鯖江型高校教育『オール SABAE』」の構築のもと、持続可能な地域社会を形成する市民の育成」と定めた、本校「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の取組みは1年目を終えました。本事業にご協力いただきました皆様にお礼申し上げます。この度、この1年間の取組みを振り返り、課題と成果を確認する報告書ができあがりましたのでお送りいたします。ご一読いただき、我々の取組みに対しましてご意見、ご助言、ご指導をいただけますと幸いです。

ちょうど1年前、私の本校着任とほぼ同時に文部科学省より福井県教育委員会へ「採択」の通知をいただきました。前藤田校長のもと、県教育委員会はじめ地元鯖江市等のご理解とご協力を賜り申請を行ったわけですが、念願叶い採択いただけましたことは、本校にとって本当に有り難く、また幸せなことありました。

本校が所在する福井県鯖江市は、眼鏡、繊維、また漆器などの伝統産業が集積し、県庁所在地である福井市の南に位置する人口約7万人の都市です。近年は積極的にデータオープン化を図った「データシティ鯖江」や一躍有名になった「鯖江市役所 JK 課」、また自治体SDGsモデル事業に選定されるなど、地域活性化に向けた新たな自治体モデルを目指す活気溢れる街でもあります。しかし、「鯖江」を名前にいただく高等学校でありながら、高等学校での教育活動と地元鯖江市の繋がりの少なさはこれまで度々課題として挙げられていました。そして決定打となったのは高等学校再編計画です。人口減少に立ち向かうために何とか地域と繋がりながら高校教育の活性化を図り、将来に渡り地元鯖江市、また丹南地区を支えてくれる人材育成のシステム構築は急務でもあったのです。

令和元年度この事業に取り組むなかで、本校を中心に地元鯖江市はもとより市内中学校、県内外高等教育機関、県内マスコミや経済団体との様々な連携を少しずつ実現するできました。地域への愛着とチャレンジ精神をもち、地域の未来を育てていく市民の育成に目標を見据え、持続可能な地域社会を形成していく高校生を育成する高等学校カリキュラム開発に挑戦を始めることもできました。

幸いにも事業開始に合わせ、鯖江市、鯖江商工会議所との3者連携協定も締結させていただきました。（1）文化・教育・学術の振興と発展、（2）人材育成、（3）まちづくり、（4）地域産業振興などあらゆる分野で引き続き連携を図りながら、地域活性化に向けて取り組むことができましたこと、感謝申し上げます。

併せて、この事業に取り組むとともに高等学校再編は最後の準備を完了させることができました。令和2年度本校は同じ鯖江市内にあります丹南高等学校を併合する形で学校再編に乗り出します。丹南高校で行われていた専門教育（福祉、デザイン、IT）を引き継ぐとともに、本校の特色でもある体操競技、陸上競技（長距離：駆伝）に特化したスポーツをそれぞれ専攻とする2コース（スポーツ・健康福祉コース、IT・デザインコース）を普通科内に設置するとともに、新たに探究科を設置し新生鯖江高校としての一歩を踏み出こととなりました。本事業で得られた地域との繋がりを今後の専門教育にも活かしその充実を、併せて新学科探究科では生徒自身の課題研究による主体的な学びの更なる充実を図ることができれば

と考えています。そして、ひいては本校卒業生が地元鯖江市、また丹南地区で地域とともに生きる市民となってくれたらと願わずにはいられません。

本校における本事業での取組みは地域の学び、地域を将来にわたって支える人材育成の要として、また地域の産学官連携・学校種間連携の要として、これまで以上に重要性を増しています。そして勿論私は、本事業が生徒の主体的で対話的な活動はもとより、本校教職員の熱心な研究や指導に支えられていることも理解しています。

最後になりますが、本事業の実施に対しまして運営指導委員をお務めいただいた皆様、文部科学省、福井県教育委員会、鯖江市、鯖江商工会議所をはじめ、各高等教育機関や行政機関・研究機関など多くの皆様にご支援・ご指導いただいておりますことに改めて感謝申し上げますとともに、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げ、更には生徒の今後ますますの成長を願いご挨拶といたします。

令和2年4月

福井県立鯖江高等学校長  
福嶋 洋之

## 研究開発報告（文部科学省提出書類より）

### 研究開発完了報告書（抜粋）

住所 福井県福井市大手3丁目17番1号  
管理機関名 福井県教育委員会  
代表者名 豊 北 欽 一

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記のとおり提出します。

#### 記

##### 1 事業の実施期間

2019年5月30日（契約締結日）～2022年3月31日

##### 2 指定校名・類型

学校名 福井県立鯖江高等学校  
学校長名 福嶋 洋之  
類型 地域魅力化型

##### 3 研究開発名

鯖江型高校教育「オールS A B A E」の構築のもと、持続可能な地域社会を形成する市民の育成

##### 4 研究開発概要

鯖江高校は平成29年度より、鯖江市役所と協働し「鯖江市デジタルパンフレット」を作成するなど、「総合的な学習の時間」だけでなく、数学や地歴公民科、理科、家庭科、芸術科音楽をはじめとする全教科で地域教材を活用した授業開発を実施してきた。この「鯖江市デジタルパンフレット」作成の取組みは、平成28年度に作成を開始した。以降、右表の経過を

平成29年度	「鯖江市デジタルパンフレット」作成開始
	鯖江市長へのプレゼンテーション
平成30年度	「鯖江市デジタルパンフレット」作成継続
	パナソニック教育財団より助成支援
	福井国体体操競技場での市民・観光客向けプレゼンテーション

経て、実践を行ってきた。この実践を通し、総合的な学習の時間だけでなく、地域教材を活用した全教科・科目での授業開発を実施するという、一定の成果をあげることができたが、一方で、市役所・N P O・同窓会など市民との連携強化、全校体制でのカリキュラム開発、

鯖江高校の実践の市民への普及等の課題もみられた。

このような課題を解決するため、鯖江市役所や地域のNPO法人、企業組合、社会福祉協議会などの公益団体、鯖江高校同窓会など、地元鯖江市に深く根差した地方団体と鯖江高校との結びつきを強め、地域と協働する高校教育のモデル、つまり鯖江型高校教育「オールS A B A E」を構築する。加えて「総合的な探究の時間」だけでなく、地域資源を活用した全教科でのカリキュラム開発・授業実践により一層磨きをかけ、全国へ発信する。

これを踏まえ本研究開発では、①市民との協働による学びを促進し持続可能な地域社会を形成する市民を育成する、②市民との協働による学びにより生徒の探究力を育成する、③市民との協働による学びの成果を広く発信し地域の中核としての学校を目指す、という3つの目的を設定した。さらに、育成を目指す地域人材像として、①地域への愛着と貢献意識をもち地域の未来を育てる市民、②地域の伝統や文化の継承し新たなことへのチャレンジ精神をもつ市民、③多様な価値観を共有しあらゆる人々を包摂する社会を形成する市民、④持続可能な地域社会の形成に向け自ら考え行動する市民、という4つを設定した。このような地域人材を育成するため、①多様な情報を収集し、それをもとに自分で考えをまとめ表現する力、②他者に共感し協調して問題解決を図る力、③目標の達成に向けて計画を立て行動する力、という3つの具体的な力を育成することを目標に、本研究開発を実施していく。

## 5 教育課程の特例の活用の有無

無

## 6 管理機関の取組・支援実績

### (1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンソーシアムについて			1回		1回				1回			
カリキュラム開発等専門家について					1回				1回			
地域協働学習実施支援員について	1回	1回	1回									
運営指導委員会について								1回			1回	

### (2) 実績の説明

- ・管理機関による事業の管理方法や地域において構築するコンソーシアムの構成、カリキュラム開発等専門家、及び地域協働学習実施支援員の配置について

## コンソーシアムの構成団体

機関名	機関の代表者名（敬称略）
鯖江市役所	牧野 百男
福井経済同友会	江守 康昌・林 正博
金沢大学地域創造学類	佐川 哲也
福井大学教職大学院	松木 健一
福井県立大学	進士 五十八
鯖江市中学校長会	丸山 繁喜
福井新聞社	吉田 真士
NPO 法人エルコミュニティ	竹部 美樹
鯖江高校同窓会	久保田 治裕
福井県教育委員会	豊北 欽一

6月13日（木） 鯖江高校・鯖江商工会議所・鯖江市役所相互連携協定締結

8月28日（水） 相互連携協定第1回連絡協議会

12月26日（木） 相互連携協定第2回連絡協議会

## カリキュラム開発等専門家の配置

福井大学教職大学院准教授 木村 優 氏

8月 1日（木） 課題解決型モデル開発事業「課題解決型学習における「評価」に関する学習会」にて教員研修および指導・助言

12月21日（土）・22日（日） I S N第5回研究会での他校を交えての意見交換および指導・助言

## 地域協働学習実施支援員の配置

N P O 法人エルコミュニティ代表 竹部 美樹 氏

4月25日（木） 本事業採択決定を報告および今年度の活動計画について協議

5月21日（火） 鯖江市地域活性化プランコンテストについて協議

6月 7日（金） 公民科の授業における地域協働の方法について協議

## 運営指導委員会の構成員

No.	氏名（敬称略）	所属
1	佐川 哲也	金沢大学地域創造学類長
2	田中 謙次	福井経済同友会人づくり委員会副委員長
3	宮本 昌彦	鯖江市産業環境部長
4	丸山 繁喜	鯖江市中学校長会長
5	齋藤 多久馬	鯖江市社会福祉協議会 会長

11月12日（火） 第1回運営指導委員会

2月14日（金） 第2回運営指導委員会

### ・管理機関による主体的な取組について

継続的な取組を行うための教員の人事面における配慮として、加配の計画

運営指導委員会の運営および指導・助言（添付資料①参照）

- ・高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について
  - ・令和元年度 6 月 13 日に鯖江高校・鯖江商工会議所・鯖江市役所三者相互連携協定締結
- ・事業終了後の自走を見据えた取組について
  - ・地域人材の継続的な連携の支援および三者相互連携の強化

## 7 研究開発の実績

### (1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生「総合的な探究の時間」における新聞記事づくり							1回	3回	2回			
上記科目以外における地域人材の活用				2回	1回		1回	1回	2回	1回		
授業改善のための教員研修会									1回			

### (2) 実績の説明

- ・研究開発の内容や地域課題研究の内容について

#### ① 1年生「総合的な探究の時間」における新聞記事づくりについて

1年生の「総合的な探究の時間」においては、次年度から本格実施する探究活動に向け、探究活動の基礎スキルの習得および意欲向上を目指したカリキュラムを編成した。主に1学期はスキルの獲得、2学期から3学期にかけて、新聞記事づくりを行った。特に新聞記事づくりでは、コンソーシアムの一員でもある福井新聞社と連携しつつ、自分の興味関心に即したテーマで記事づくりを実施している。その際そのテーマに関する課題を考えた上で地域の方々へのインタビューを行うなど調査活動を行い、それぞれの課題を探究していくミニ課題研究に取り組んだ。

#### ② 上記科目以外における地域人材・資源の活用した授業展開について

1年生の「総合的な探究の時間」以外の教科について、数学、理科（地学基礎）、音楽、家庭科（子どもの発達と保育）など幅広い教科・科目で地域人材を活用した特別授業を実施した。その後、それらに関する地域資源を活用して、その後の授業や特別活動を展開した。

#### ③ 授業改善のための教員研修について

「高校魅力化評価システム」のアンケート結果を踏まえ、本校生徒の現状分析、今後の授業のあり方について、教員全体で意識することを目的に研修会を実施した。また、鯖江市の現状と将来に関するデータについても紹介し、本事業のねらいや目的について、再確認した。

- ・地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

総合的な探究の時間および全科目で地域との協働を実施することを目標としている。

- ・地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

次年度の高校再編後の新学科、新コースの設置による学校設定科目等において、教科横断的な学習を検討中

- ・地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラムマネジメントの推進体制  
校務分掌として地域協働推進事務局の設置（本年度は2名）
- ・学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）  
地域協働推進員会の設置および協議（年3回）
- ・カリキュラム開発等専門家、海外交流アドバイザー及び地域協働学習支援員の学校内における位置づけについて

カリキュラム開発等専門家 福井大学教職大学院准教授 木村 優 氏

雇用関係なし 適宜指導・助言を受ける

地域協働学習実施支援員 NPO法人エルコミュニティ代表 竹部 美樹 氏

雇用関係なし 適宜指導・助言を受ける

- ・学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

地域協働推進委員会、運営指導委員会などの進捗状況の把握

地域協働推進事務局員との情報共有

- ・カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について  
鯖江高校・鯖江商工会議所・鯖江市役所相互連携協定の連絡協議会における指導・助言

- ・運営指導委員会等、取組に対する指導助言とうに関する専門家からの支援について

運営指導委員会を2回実施、指導・助言を受ける

- ・類型毎の趣旨に応じた取組について

総合的な探究の時間以外の授業における地域人材の活用

クッキング部による地元野菜「吉川ナス」を使ったレシピづくり

3年生音楽選択者による民族楽器の演奏発表会

「北陸技術交流テクノフェア 2019」への参加

- ・成果の普及方法・実績について

地域協働ニュース（第1号～第11号）の作成

広報誌（地域協働だより）の作成

マスコミによる取材

## 8 目標の進捗状況、成果、評価

本事業の成果目標として、「『表現力』『協調力』『行動力』の3つの力を、生徒が習得すべき能力とする。自己評価および他者評価を行い、卒業時に3つの能力が全て習得できた生徒の割合を全校生徒数の85%以上とする」と設定した。「高校魅力化評価システム」のアンケート結果から以下のような指標となった。

	アンケート項目	全校生徒の割合
表現力	自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	71.8%
	友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	59.8%
協調力	自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	89.7%
	相手の意見を丁寧に聞くことができる	91.1%
	共同作業だと自分の力が發揮できる	72.6%
行動力	目標を設定し、確実に行動することができる	65.1%
	自分で計画を立てて行動することができる	69.2%
	自主的に調べものや取材を行う	60.4%
	学校以外のいろいろな人に話を聞きに行く	29.2%

「高校魅力化評価システム」のアンケート結果を分析すると、全国の本事業採択校と比較して、本校の生徒は上記以外の項目も含めて全体的に高い数値となった。本事業だけでなく、本校の教育活動の成果の現れである。しかし、社会参画意識に関する項目や地域資源・地域課題の解決に関する項目などでは、50%を下回っている。これらの項目は本事業の本質に関わる重要な項目ととらえ、相互連携協定を活かした地元企業との連携強化、地域に根差した探究活動の推進等が必要である。

## 9 次年度以降の課題及び改善点

運営指導委員会、相互連携協定連絡協議会、カリキュラム開発等専門家などの指導・助言と今年度の取組みをもとに、次年度以降の課題及び改善点として、下記をあげておく。

### ①鯖江の特色を活かしたカリキュラム開発

鯖江には、めがねや漆器などの伝統産業だけでなく、鯖江市によるIT企業の誘致促進事業を受け、多くの特色ある企業が存在している。相互連携協定を活かし、これらの地元企業との連携をより一層促進していく。特に、次年度の高校再編により、本校には「スポーツ・健康福祉コース」「IT・デザインコース」が新設される。これらのコースの特色を活かしたカリキュラム開発が必要である。

### ②生徒の探究活動の充実

今年度の1年生を対象とした「総合的な探究の時間」では、探究活動の基礎的なスキル獲得や探究活動に関する意欲向上のためのカリキュラムが実施された。次年度以降は、本格的な探究活動が実施される。そこで、本県の課題解決型学習モデル開発事業実践校との情報交換、カリキュラム開発等専門家の木村優氏との連携を促進し、本校の探究活動の充実を図る。そして、合同発表会や地域への活動の参加を積極的に進め、探究活動を深めていく。また、探究課題の設定の際、ジェンダー平等や環境問題など、SDGsに即した課題設定の方法についての研究を進めていく。

### ③教員研修の充実

運営指導委員会からも指摘された通り、地元鯖江のことを生徒に伝える、将来鯖江に帰ってくる生徒を育成するためには、本校の教員が鯖江に対する理解を深めることが重要である。今年度も実施した授業改善の研修と合わせ、カリキュラム開発等専門家やコンソーシアムの方々に協力をいただきながら、鯖江について学ぶ研修会を実施していく。

## 目標設定シート（文部科学省提出資料）

### 2019年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業 目標設定シート

#### 1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(2019年度)
	(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 「表現力」「協調力」「行動力」の3つの力を、生徒が習得すべき能力とする。自己評価および他者評価を行い、卒業時に3つの能力が全て習得できた生徒の割合を全校生徒数の85%以上とする。表現力は作成した資料やプレゼンテーション、協調力は毎回の授業における振り返り、行動力はフィールドワークや発表会など学校外の活動への参加回数、などによって評価する。					単位： %
a 本事業対象生徒：		67.7				50
本事業対象生徒以外：						
目標設定の考え方：具体的な能力の定着状況の測定を毎年度末ごとに実施する。初年度の2019年度末では定着状況を50%とし、翌年度の2020年度末では前年度比30%増加の65%とする。最終年度の2021年度末では引き続き30%増加の85%以上とする。目標設定に達しない場合は、活動内容の改善を促す。						
	(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標) 高等学校卒業後の地元就職率を100%とする。また、将来地元で就職を希望する生徒の割合を85%以上とする。					単位： %
a 本事業対象生徒：		90				60
b 本事業対象生徒以外：						
目標設定の考え方：高等学校卒業後の民間企業への就職は、地元民間企業への就職活動を最優先に行い、就職率を100%とする。また、地元就職を希望する生徒の割合を初年度の2019年度末では60%とし、翌年度の2020年度末では前年度比20%増加の72%とする。最終年度の2021年度末では引き続き20%増加の85%以上とする。目標設定に達しない場合は、活動内容の改善を促す。						

#### 2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(2019年度)
	(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 生徒による研究や実践の中間発表と最終発表を、地域及び教育関係機関に向けて4回行う。					単位： 回
a		2				2
目標設定の考え方：初年度は2回、次年度は3回、最終年度は4回とする。年度ごとの目標値に達しない場合は、活動内容の改善を求める。						
	(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 県内・県外との合同発表会・研究発表会などへの参加回数を12回とする。					単位： 回
b		2				3
目標設定の考え方：初年度は3回、次年度は6回、最終年度は12回とする。年度ごとの目標値に達しない場合は、活動内容の改善を求める。						

#### 3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(2019年度)
	(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 地域の活動に参加した本校生徒の延べ人数を600名とする。					単位： 延べ人数
a		60				150
目標設定の考え方：地域の活動に参加した延べ人数を初年度は150名、次年度は300名、最終年度は600名とする。年度ごとの目標値に達しない場合は、活動内容の改善を求める						

<調査の概要について>

##### 1. 生徒を対象とした調査について

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
全校生徒数（人）	539	551	522	0	0
本事業対象生徒数			522		
本事業対象外生徒数			0		

## 研究開発の概要

### 学校概要

学 校 名 福井県立鯖江高等学校  
校 長 名 福嶋 洋之  
所 在 地 〒916-8510 福井県鯖江市舟津町2丁目5-42  
電話番号 0778-51-0001  
FAX 番号 0778-51-0103  
U R L <http://www.sabae-h.ed.jp>

### 鯖江高等学校教育方針

1. 真理と正義を愛し、生命と平和を尊ぶ人間を育成する。
2. 勤労を愛し、礼儀と秩序を重んじ、自主的で責任感に富む人間を育成する。
3. 心身ともに健康で、豊かな教養と国際的視野を備えた人間を育成する。

### 努力目標

1. 学習指導の充実
  - ① 基礎学力の充実を図り、豊かな創造力と的確な判断力の養成に努める。
  - ② 専門教科の研究に励み、生徒の多様な個性に応じた学習指導法の改善に努める。
  - ③ 主体的な学習の習慣を確立し、豊富な知識と国際感覚を身につけた生徒の育成に努める。
2. 生活指導・進路指導の充実
  - ① 秩序と規律を重んじ、品位ある生活態度の育成に努める。
  - ② 保護者との連携を図り、共通理解のもとに生活指導や進路指導の充実に努める。
  - ③ 個々の生徒の能力・適性・希望に応じた計画的な進路指導の推進に努める。
3. 教育環境の整備・美化
  - ① 敬愛と友情を基調とした人間関係を育成して、快適な精神的環境づくりに努める。
  - ② 勤労の尊さと、働くことの喜びを味わうことができる清新な環境づくりに努める。
  - ③ 自然を愛護し、資源を大切にする生活態度の育成に努める。
4. 健康・福祉・安全教育の推進
  - ① 規則的な生活習慣の確立と、心身の健康の保持・増進に努める。
  - ② 命の尊さを知り、思いやりの心のある生徒の育成に努める。
  - ③ 状況を的確に判断し、安全に行動できる生徒の育成に努める。

### 生徒在籍一覧

学科	学年	男子	女子	合計
普通科	1年	70	80	150
	2年	109	81	190
	3年	88	94	182
合計		267	255	522

## 出身中学校一覧

市 町	中学校	1年			2年			3年			総計
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	
鯖江市	鯖江	13	5	18	25	13	38	16	4	20	76
	中央	15	21	36	23	14	37	17	26	43	116
	東陽	2	5	7	7	5	12	10	11	21	40
越前市	武生第一	9	12	21	11	5	16	7	9	16	53
	武生第二	4	5	9	3	10	13	6	4	10	32
	武生第三	4	7	11	2	3	5	4	6	10	26
	万葉	1	5	6	6	5	11	2	10	12	29
	武生第五	1		1	2		2		1	1	4
	武生第六	1	4	5	5	5	10	2	3	5	20
	南越	6	4	10	6	6	12	4	6	10	32
池田町	池田										0
南越前町	南条		2	2		3	3	1	3	4	9
	今庄				1			1	2	3	4
	河野					1	1		2	2	3
越前町	朝日	1		1							1
	越前				1		1	1	1	1	2
	宮崎							1	1	1	1
	織田	2	1	3		1	1				4
福井市	明倫	1		1							1
	至民	1		1				1	1	1	2
	足羽	3	5	8	7	5	12	5	3	8	28
	清水	1		1	1		1	1	1	1	3
	福大附属							1	1	1	1
	森田				1		1				1
坂井市	丸岡		1	1							1
	丸岡南		1	1							1
永平寺町	永平寺	1	1								1
あわら市	金津		0			0		1	1	1	1
敦賀市	粟野	1		1		1			0	0	2
	松陵		0			0		1	1	1	1
県	外	4	1	5	7	5	12	8	2	10	27
	計	70	80	150	109	81	190	88	94	182	522

## 進路状況

### 平成30年度 (平成31年3月卒業生)

	東京	滋賀	富山	石川	福井	岐阜	愛知	京都	大阪	兵庫	茨城	高知	群馬	山形	静岡	埼玉	栃木	島根	宮崎	合計
国公立大学	0	0	3	0	9	0	1	0	0	0	1	1	0	1	1	0	1	2	0	20
私立大学	8	1	0	3	42	1	5	6	2	1	0	0	1	0	1	2	0	0	1	74
国公立短大	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
私立短大	0	0	0	0	0	11	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
専門学校	2	0	0	4	23	0	1	0	7	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	38
文部省管外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
就職	0	0	0	0	12	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
浪人/その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
合計	10	1	3	7	97	4	7	10	10	1	1	1	1	1	1	2	3	1	2	178

## 令和2年度 学校再編

丹南地区の高等学校再編により、普通科のみであった学科が、令和2年度入学生より探究科が新設されるとともに、普通科の中にスポーツ・健康福祉コース、IT・デザインコースが新設されました。

### 令和元年度

学年	課程	クラス数
1年	普通科	4 クラス
2年	普通科	5 クラス
3年	普通科	5 クラス



### 令和2年度

学年	学科・コース	クラス数
1年	探究科	1 クラス
	普通科	4 クラス
	スポーツ・健康福祉コース	1 クラス
	IT・デザインコース	1 クラス
2年	普通科	4 クラス
3年	普通科	5 クラス

## 教育課程（令和元年度）

教科	科目	標準単位	普通科		教科	科目	標準単位	普通科		教科	科目	標準単位	普通科						
			1年	文系				2年	文系				3年文系	3年理系	文I	文II	理I	理II	
国語	国語総合	4	6		国語	国語総合	4			国語	国語総合	4							
	国語表現	3				国語表現	3				国語表現	3							
	現代文A	2				現代文A	2				現代文A	2							
	現代文B	4				現代文B	4	3	2		現代文B	4	3	3	2	2	2		
	古典A	2				古典A	2				古典A	2							
	古典B	4				古典B	4	4	2		古典B	4	4	3	2				
地理歴史	世界史A	2			地理歴史	世界史A	2	2		地理歴史	世界史A	2			2	2			
	世界史B	4				世界史B	4	3			世界史B	4	4	4					
	日本史A	2				日本史A	2	2			日本史A	2							
	日本史B	4				日本史B	4	3			日本史B	4	4	4					
	地理A	2				地理A	2				地理A	2							
	地理B	4				地理B	4		3		地理B	4		3	2				
公民	現代社会	2	2		公民	現代社会	2			公民	現代社会	2							
	倫理	2				倫理	2				倫理	2							
	政治・経済	2				政治・経済	2				政治・経済	2	3	2					
数学	数学I	3	3		数学	数学I	3			数学	数学I	3							
	数学II	4	1			数学II	4	4	4		数学II	4	3	2					
	数学III	5				数学III	5		1		数学III	5			5	5			
	数学A	2	2			数学A	2	1			数学A	2							
	数学B	2				数学B	2	1	2		数学B	2	3	2	2	2			
	数学活用	2				数学活用	2				数学活用	2							
理科	科学と人間生活	2			理科	科学と人間生活	2			理科	科学と人間生活	2							
	物理基礎	2				物理基礎	2		2		物理基礎	2							
	物理	4				物理	4	3			物理	4			4	4			
	化学基礎	2	2			化学基礎	2				化学基礎	2	2						
	化学	4				化学	4	3			化学	4			4	3			
	生物基礎	2	2			生物基礎	2				生物基礎	2	2		4	4			
保健体育	生物	4			保健体育	生物	4	3		保健体育	生物	4							
	地学基礎	2				地学基礎	2	2			地学基礎	2	2						
	地学	4				地学	4				地学	4							
	理科課題研究	1				理科課題研究	1				理科課題研究	1							
	体育	7~8	3			体育	7~8	2	2		体育	7~8	2	3 @2	2	3 @2			
	保健	2	1			保健	2	1	1		保健	2							
芸術	音楽I	2	2		芸術	音楽I	2	1		芸術	音楽I	2							
	音楽II	2				音楽II	2				音楽II	2							
	音楽III	2				音楽III	2				音楽III	2							
	美術I	2	2			美術I	2	1			美術I	2							
	美術II	2				美術II	2				美術II	2			3				
	美術III	2				美術III	2				美術III	2							
外國語	日本語基礎英語基礎	2			外國語	日本語基礎英語基礎	2			外國語	日本語基礎英語基礎	2							
	日本語表現I	3	4			日本語表現I	3				日本語表現I	3							
	日本語表現II	4				日本語表現II	4	4	4		日本語表現II	4	4	4	4	4			
	日本語表現III	4				日本語表現III	4				日本語表現III	4							
	英語表現I	2	3			英語表現I	2				英語表現I	2							
	英語表現II	4				英語表現II	4	3	2		英語表現II	4	3	2	2	2			
家庭	家庭基礎	2			家庭	家庭基礎	2	2	2	家庭	家庭基礎	2							
	家庭総合	4				家庭総合	4				家庭総合	4							
	生活デザイン	4				生活デザイン	4				生活デザイン	4							
情報	社会と情報	2	2		情報	社会と情報	2			情報	社会と情報	2	2						
	情報の科学	2				情報の科学	2				情報の科学	2	2						
専門科目目計														3	2	2			
教科単位合計														33	33	33			
ホームルーム活動														1	1	1			
総合的な学習														1	1	1			
総計														35	35	35			

注1：3年次文IIの芸術・専門は、音楽・美術・書道・子どもの発達と保育のいずれか3単位を選択

数学II・社会と情報は、いずれか2単位を選択

注2:3年次文II・理IIの体育・情報・専門は、体育・情報の科学・素描・演奏研究・フードデザインのいずれか2単位を選択

## 教育課程（令和2年度入学生）

### 探究科・普通科スタンダードクラス（その1）

学科・類型	学年	探究科 理系				探究科 文系				普通科 スタンダード 理系				普通科 スタンダード 文 I				普通科 スタンダード 文 II				
		科目	標準単位	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3
国語	国語総合	4	5			5	5			5	6			6	6			6	6			6
	国語表現	3																				
	現代文A	2																				
	現代文B	4		2	2	4		3	3	6		2	2	4		3	3	6		3	4	7
	古典A	2																				
	古典B	4		2	3	5		4		4		2	3	5		4	4	8		4	3	7
地理歴史	世界史A	2		2		2		2		0・2		2	2	2		0・2	2		0・2			
	世界史B	4						2		0・2		3	4	0・7		3	4	0・7				
	日本史A	2						2		0・2		2		0・2		2		0・2				
	日本史B	4														3	4	0・7		3	4	0・7
	地理A	2																				
	地理B	4		3	3	6					3	3	6									
* 日本史世界史演習																				0・2		
公民	現代社会	2	2			2	2			2	2			2	2			2	2			2
	倫理	2						2		2												
	政治・経済	2						2	2							3	3		2	2		
数学	数学I	3	3			3	3			3	3			3	3			3	3			3
	数学II	4	1	3		4	1	4		5	1	4		5	1	4	3	8	1	4	3	8
	数学III	5									1	5	6									
	数学A	2	2			2	2			2	2			2	2	1		3	2	1	1	3
	数学B	2						2	2		2	2	4		1	3	4		1	1@2	2・4	
理科	物理基礎	2	2			2	2			2	2			2								
	物理	4								3	4			0・7								
	化学基礎	2		2		2		2		2	2			2	2			2				2
	化学	4								3	4	7										
	生物基礎	2	2			2	2			2	2			0・2		2		2		2		2
	生物	4								3	4	0・7										
保健体育	地学基礎	2								2				2	2			2	2			2
	地学	4																				
	体育	7~8	3	2	2	7	3	2	2	7	3	2	2	7	3	2	2	7	3	2	3@2	8・10
芸術	保健	2	1	1		2	1	1		2	1	1		2	1	1	2	1	1	1@2	2・4	
	音楽I	2	2			0・2	2			0・2	2			0・2	2	1	1	0・3	2	1		0・3
	音楽II	2																	2	0・2		
外國語	音楽III	2																				
	美術I	2	2			0・2	2			0・2	2			0・2	2	1	1	0・3	2	1		0・3
	美術II	2																	2	0・2		
	美術III	2																				
	書道I	2	2			0・2	2			0・2	2			0・2	2	1	1	0・3	2	1		0・3
	書道II	2																	2	0・2		
家庭	書道III	2																				
	コミュニケーション英語基礎	2																				
	コミュニケーション英語I	3	4			4	4			4	4			4	4			4	4			4
	コミュニケーション英語II	4		4		4	4			4	4			4	4			4	4			4
	コミュニケーション英語III	4			4	4				4	4			4	4			4	4			4
	英語表現I	2	2			2	2			2	3			3	3			3	3			3
情報	英語表現II	4		2	2	4				2	2	4		3	3	6		3	4	7		
	家庭基礎	2	2			2	2			2	2			2	2			2	2			2
	家庭総合	4																				
専門科目	社会と情報	2	2			2	2			2	2			2	2			2	2			2
	計	9	16	25		6	21	27										4	4		0・2	0・2
	小計	33	32	32	97	33	32	32	97	33	33	33	99	33	33	33	99	33	33	33	99	
総合的な探究の時間	ホームルーム活動	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	
	総合的な探究の時間	3~6	1	2	2	5	1	2	2	5	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3
	自立活動	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	
合計	計	35	35	35	105	35	35	35	105	35	35	35	105	35	35	35	105	35	35	35	105	
	・1年次の数学は、「数学I」「数学II」の順に履修する。												・地歴は「世界史A」と「日本史B」または「日本史A」と「世界史B」を履修する。									
	備考												・芸術は、I IIを継続履修する。 ・@2単位は、*「日本史世界史演習」「数学B」「体育」「保健」「素描」「演奏研究」「実践生物」の中から1科目を選択する。 ・*「日本史世界史演習」「実践生物」は学校設定科目。									

(注意) 1 整理番号は、別表「学校番号」によること。  
2 専門教育に関する各教科・科目については、第4表に記入すること。

3 ホームルーム活動については、週当たりの単位時間数を記入すること。  
4 総合的な探究の時間については、履修する単位数を記入すること。

探究科・普通科スタンダードクラス（その2）

学科・類型		探究科 理系				探究科 文系				普通科 スタンダード 理系				普通科 スタンダード 文 I				普通科 スタンダード 文 II					
学年		1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計		
各教科	科目	標準単位																					
音 楽	演 奏 研 究	2~6																		@2	0・2		
美 術	素 描	2~12																		@2	0・2		
探 究	*古典探究	4								4	4												
	*世界史探究	7							3	4	0・7												
	*日本史探究	7							3	4	0・7												
	*理数数学A	3		3	3																		
	*理数数学B	7		7	7																		
	*数学探究A	4							4	4													
	*数学探究B	2							2	2													
	*実践化学	2							2	2								2	0・2				
	*実践生物	2							2	2								2	2		@2	0・2	
	*実践地学	2																2	0・2				
	*物理探究	7~8		3	5	4	7・8																
	*化学探究	7~8		3	4	5	7・8																
	*生物探究	7~8		3	5	4	7・8																
英 語	*英語総合	6						3	3	6													
計		9	16	25		6	21	27										4	4		0・2	0・2	
備 考	•2年次の「化学探究」は、「化学基礎」「化学探究」の順に履修する。 •*「理数数学A」「*「理数数学B」「*「物理探究」「*「化学探究」「*「生物探究」は学校設定科目。 •2年次に「物理探究」を選択した場合は3年次「物理探究」「化学探究」を、「生物探究」を選択した場合は3年次「生物探究」「化学探究」を履修する。											•地歴は「世界史A」「日本史探究」または「日本史A」「世界史探究」を履修する。 •*「古典探究」「*「世界史探究」「*「日本史探究」「*「数学探究A」「*「数学探究B」「*「実践化学」「*「実践生物」「*「実践地学」は学校設定科目。											

(注意) 1 整理番号は、別表「学校番号」によること。  
2 専門教育に関する各教科・科目については、まとめて記入すること。

普通科スポーツ・健康福祉コース 普通科 I T・デザインコース (その1)

学科・類型			普通科 スポーツ・健康福祉コース(スポーツ専攻)				普通科 スポーツ・健康福祉コース(健康福祉専攻)				普通科 I T・デザインコース(I T専攻)				普通科 I T・デザインコース(デザイン専攻)			
各教科	科目	標準単位	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計
	国語総合	4	4			4	4			4	4			4	4			4
国語	国語表現	3																
	現代文A	2																
	現代文B	4		2	3	5		2	3	5		2	3	5		2	3	5
	古典A	2																
	古典B	4		2	2	4		2	2	4		2	2	4		2	2	4
	世界史A	2		2		2		2		2		2		2		2		2
地理歴史	世界史B	4																
	日本史A	2																
	日本史B	4		2	2	4		2	2	4			4	4			4	4
	地理A	2																
	地理B	4																
	*日本史世界史演習	2																
公民	現代社会	2	2			2	2			2	2			2	2			2
	倫理	2																
	政治・経済	2			2	2			2	2								
数学	数学I	3	3			3	3			3	3			3	3			3
	数学II	4		3	4	7		3	4	7		4	3	7		3	3	6
	数学III	5																
	数学A	2									2			2	2			2
	数学B	2									2	1	3					
理科	物理基礎	2										2		2		2		2
	物理	4																
	化学基礎	2			2	2			2	2			2	2			2	2
	化学	4																
	生物基礎	2	2			2	2			2	2			2	2			2
	生物	4																
	地学基礎	2		2		2		2		2								
保健体育	体育	7~8	2	2	3	7	2	2	3	7	2	2	3	7	2	2	3	7
	保健	2	1	1		2	1	1		2	1	1		2	1	1		2
芸術	音楽I	2	2			0・2	2			0・2	2			0・2	2			0・2
	音楽II	2																
	音楽III	2																
	美術I	2	2			0・2	2			0・2	2			0・2	2			0・2
	美術II	2																
	美術III	2																
	書道I	2	2			0・2	2			0・2	2			0・2	2			0・2
	書道II	2																
外国語	コミュニケーション英語基礎	2																
	コミュニケーション英語I	3	4			4	4			4	4			4	4			4
	コミュニケーション英語II	4		4		4		4		4		4		4	4		4	4
	コミュニケーション英語III	4			4	4			4	4			4	4		4	4	
	英語表現I	2														2		2
	英語表現II	4																
家庭	家庭基礎	2										2		2		2		2
	家庭総合	4	2	2		4	2	2		4								
情報	社会と情報	2	2			2	2			2	2			2	2			2
	専門科目	計	6	8	8	22	6	8	6	20	6	7	8	21	6	8	9	23
小計			30	30	30	90	30	30	30	90	30	30	30	90	30	30	30	90
ホームルーム活動			1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3
総合的な探究の時間			3~6	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1
自立活動			※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※
合計			32	32	32	96	32	32	32	96	32	32	32	96	32	32	32	96
備考																		

(注意) 1 整理番号は、別表「学校番号」によること。  
2 専門教育に関する各教科・科目については、第4表に記入すること。

3 ホームルーム活動については、週当たりの単位時間数を記入すること。  
4 総合的な探究の時間については、履修する単位数を記入すること。

普通科スポーツ・健康福祉コース 普通科 I T・デザインコース（その2）

学科・類型		普通科 スポーツ・健康福祉コース (スポーツ専攻)				普通科 スポーツ・健康福祉コース (健康福祉専攻)				普通科 I T・デザインコース (IT専攻)				普通科 I T・デザインコース (デザイン専攻)				
各教科	科目	学年				標準単位	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計
		1	2	3	計		1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計
家庭	子どもの発達と保育	2~6							2	2								
	フードデザイン	2~6					2	2		4								
情報	情報の表現と管理	2~4									2			2				
	情報テクノロジー	2~4									2	2		4				
	アルゴリズムとプログラム	2~6									2	2	2	6				
	データベース	2~6											3	3				
	情報システム実習	4~8									3	3	6					
福祉	社会福祉基礎	2~6					2			2								
	生活支援技術	2~12						4		4								
	介護総合演習	2~6							2	2								
	こころとからだの理解	2~12		2		2			2		2							
	*ボランティア基礎	2					2			2								
体育	スポーツI	1~18	6	6	6	18												
	スポーツII	1~18																
	スポーツIII	1~18																
	*総合スポーツ	2			2	2				2	2							
美術	美術史	2~4													1	1	2	
	素描	2~12												3	2	3	8	
	構成	2~12												3			3	
	絵画I	2~12													3		0.3	
	絵画II	2~12													3		0.3	
	ビジュアルデザインI	2~12													3		0.3	
	ビジュアルデザインII	2~12													3		0.3	
	クラフトデザインI	2~12													3		0.3	
	クラフトデザインII	2~12													3		0.3	
	映像表現I	2~12													3		0.3	
	映像表現II	2~12													3		0.3	
	鑑賞研究	2~6													2	2		
	*地域のデザイン	2													2		2	
探究	*実践生物	2							2	2								
計		6	8	8	22		6	8	8	22	6	7	8	21	6	8	9	23
備考		*「総合スポーツ」は学校設定科目。				*「ボランティア基礎」「総合スポーツ」「実践生物」は学校設定科目。								・美術は、I IIを継続履修する。 ・*「地域のデザイン」は学校設定科目。				

(注意) 1 整理番号は、別表「学校番号」によること。  
2 専門教育に関する各教科・科目については、まとめて記入すること。

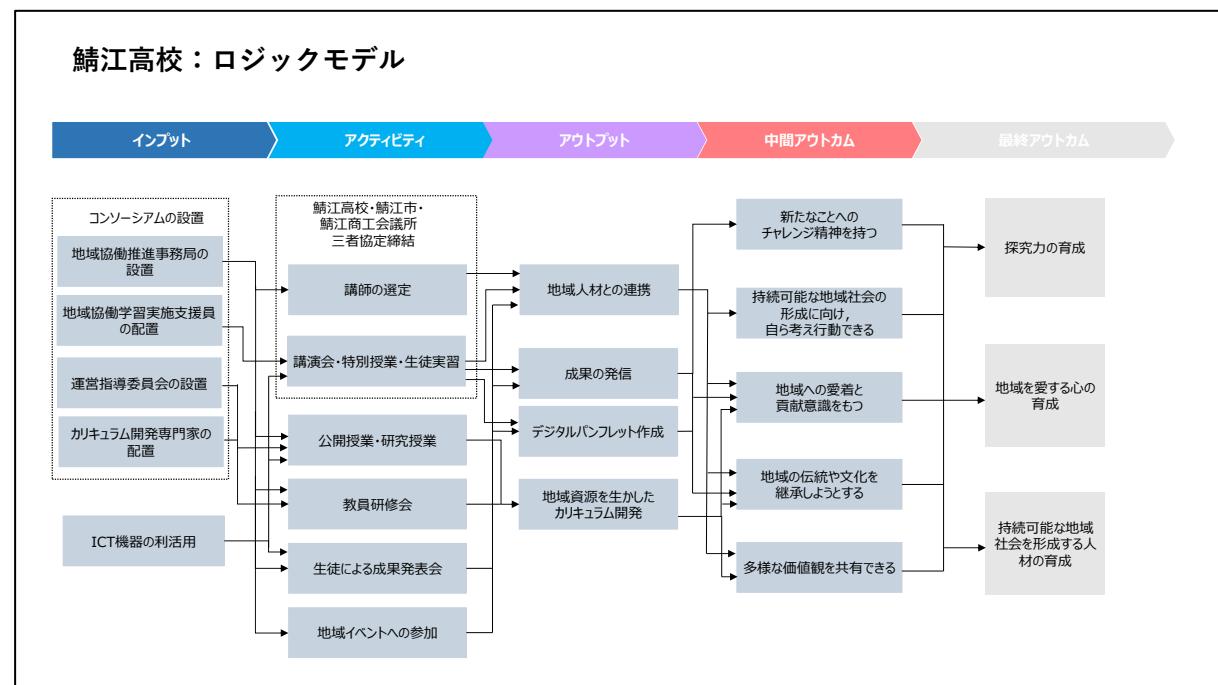
## 2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	ふくいけんりつさばえこうとうがっこう					②所在都道府 県	福井県					
2019～2021	①学校名	福井県立鯖江高等学校											
③対象学科 名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模							
	1年	2年	3年	4年	計	1年生4学級, 2, 3年生5学級, 生徒 総数522名の県内中規模校。来年度の 再編統合により, 1学年7学級となる。							
⑥研究開発 構想名	鯖江型高校教育「オールSABAE」の構築のもと, 持続可能な地域社会を形成する市民の育成												
⑦研究開発 の概要	本校では平成29年度より, 鯖江市役所との協働で「鯖江市デジタルパンフレット」を作成するなど, 総合的な学習の時間だけでなく全教科・科目において地域教材を活用した授業開発を行ってきた。このような成果があがる一方, 市役所・NPO・同窓会などの市民との連携強化, 全校体制でのカリキュラム開発, 実践の市民への普及, などの課題も出てきた。このような課題を解決するため, 鯖江市役所や地域のNPO法人, 企業組合, 鯖江高校同窓会など, 地元鯖江市に深く根差した地方団体と本校との結びつきを強め, 鯖江型高校教育「オールSABAE」を構築するため, 総合的な探究の時間だけでなく, 地域教材を活用した全教科・科目でのカリキュラム開発・授業実践を行い, 全国へ発信する。												
⑧ 研 究 開 発 の 内 容 等	⑧ -1 全 体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>現在, 日本の地方自治体の多くが人口減少や少子高齢化, 過疎化などの課題を解決するため, 多くの関係団体と連携しながら地域活性化に関わる取組みを行っている。高校教育の現場にもその成果やノウハウを積極的に取り入れ, 地域との協働での学びを促進することで, 高校生の地域社会に積極的に関与する姿勢を培い, 持続可能な地域社会を形成する市民を育成することが求められている。本校では, その協働の成果の発信・普及に努めることで, 地域社会の中核としての役割を果たしたい。そのため, 以下の3つの目的を設定した。①市民との協働による学びを促進し, 持続可能な地域社会を形成する市民を育成する。②市民との協働による学びにより, 生徒の探究力を育成する。③市民との協働による学びの成果を広く発信し, 地域の中核としての学校を目指す。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>鯖江市の行政や民間団体などはすでに地方活性化に向けた取組みを加速させており, 全国的にも高い評価を得ている。本校の生徒もこのような取組みに参加しているだけでなく, 平成29年度から鯖江市役所と協働し「鯖江市デジタルパンフレット」を作成するなど, 地域との連携をすでに始めている。これらをさらに拡大・充実させ, 鯖江型高校教育「オールSABAE」を構築するため, 以下のようない仮説を設定した。</p> <p>仮説1 生徒と教員だけでなく, 市民との協働を促すことが探究力の育成に大きく貢献する。</p> <p>仮説2 様々な地域団体との結びつきを強化することで, 総合的な探究の時間だけでなく, 全教科・科目で地域資源を活用したカリキュラム開発が可能となり, 授業改善につながる。</p> <p>仮説3 本校における学びの成果を広く発信することで, 本校の教育活動の充実だけでなく, 市民のまちづくりへの参加を促進することができる。</p>											

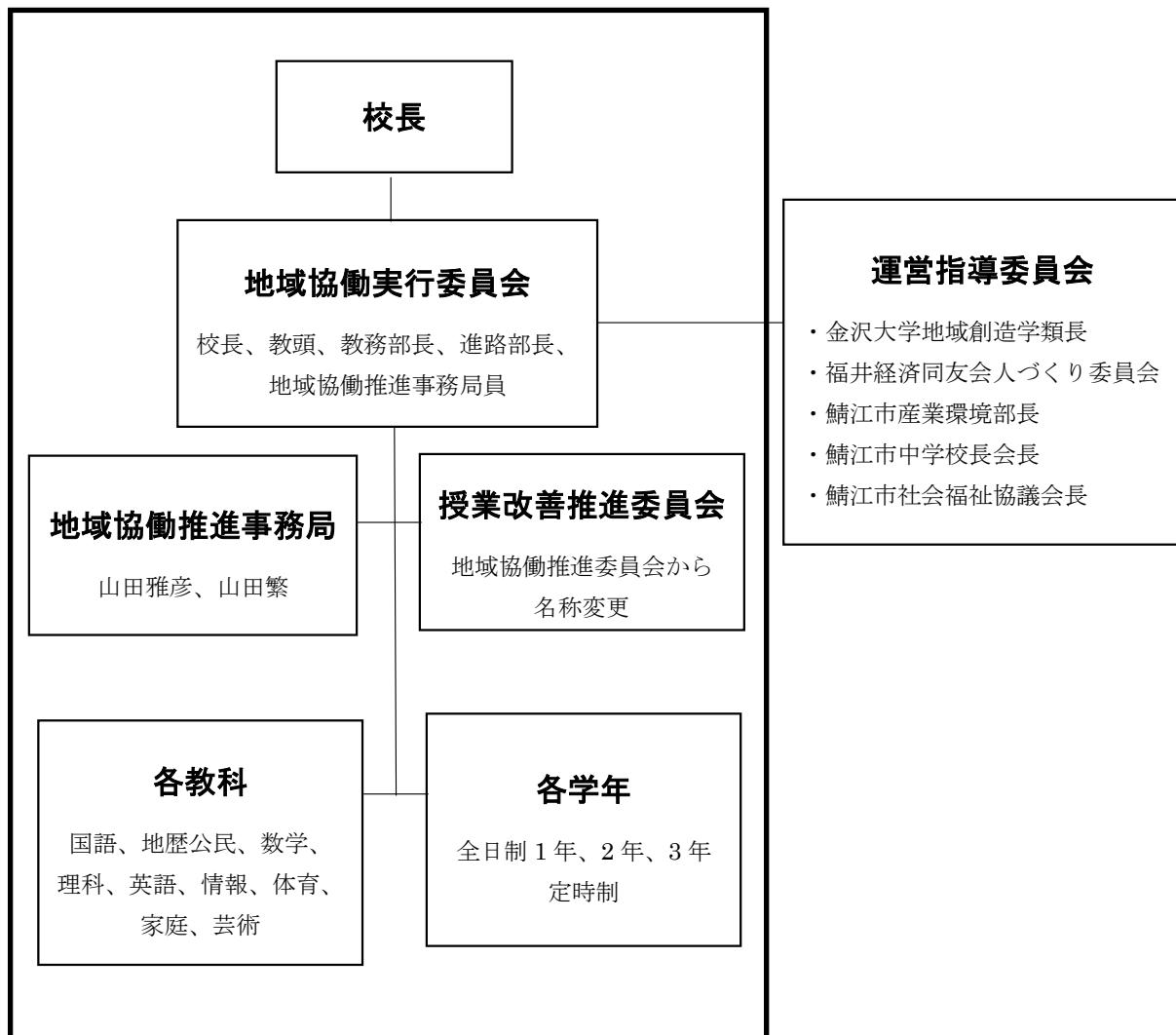
	<p>これら3つの仮説を検証するため、以下の3つの研究開発を設定した。</p> <p>研究開発Ⅰ：市民と生徒や教員が交流するプラットフォームとしての学校づくり  研究開発Ⅱ：教育活動全体で地域資源を活用するカリキュラム開発  研究開発Ⅲ：市民に高校教育の成果を発信するための効果的な手法の開発</p> <p>本校は、令和2年度に高校再編を控えており、探究科（仮称）を新設、普通科の中に入スポーツ・福祉コース（仮称）、IT・デザインコース（仮称）を設置する予定である。この高校再編により、本校は鯖江市で唯一の高校となる。そのため、上記の3つの研究開発を推進し、今まで以上に地域に根差した学校づくりを目指し、市民との連携を強化することで、本校の独自性をアピールするとともに、本校の教育の魅力を高めていきたい。</p>																
⑧-2 具体的 的内容	<p><b>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</b>  総合的な探究の時間については、下記の計画で実施する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px;">総合的な探究の時間</td><td style="width: 33%; padding: 5px;">1年次</td><td style="width: 33%; padding: 5px;">前半：①ブレインストーミング、KJ法、マッピングなどの思考法に関する技法の習得 ②プレゼンテーション能力の育成 ③新聞の読み比べ、情報教育などを通じたリテラシー教育 ④論理的思考力の育成 これら①～④に関わる学習課題を用意し、探究力の基礎となるスキルを修得する。 後半：地域資源を活かしたミニ課題研究の実施 ※その他長期休業を利用して地域研究合宿を実施する。</td></tr> <tr> <td></td><td style="padding: 5px;">2年・ 3年次</td><td style="padding: 5px;">地域と協働しながらグループ毎に課題解決型探究活動または地域研究を実施、「まとめ」を作成 中間発表会・最終発表会を実施。</td></tr> </table>	総合的な探究の時間	1年次	前半：①ブレインストーミング、KJ法、マッピングなどの思考法に関する技法の習得 ②プレゼンテーション能力の育成 ③新聞の読み比べ、情報教育などを通じたリテラシー教育 ④論理的思考力の育成 これら①～④に関わる学習課題を用意し、探究力の基礎となるスキルを修得する。 後半：地域資源を活かしたミニ課題研究の実施 ※その他長期休業を利用して地域研究合宿を実施する。		2年・ 3年次	地域と協働しながらグループ毎に課題解決型探究活動または地域研究を実施、「まとめ」を作成 中間発表会・最終発表会を実施。										
総合的な探究の時間	1年次	前半：①ブレインストーミング、KJ法、マッピングなどの思考法に関する技法の習得 ②プレゼンテーション能力の育成 ③新聞の読み比べ、情報教育などを通じたリテラシー教育 ④論理的思考力の育成 これら①～④に関わる学習課題を用意し、探究力の基礎となるスキルを修得する。 後半：地域資源を活かしたミニ課題研究の実施 ※その他長期休業を利用して地域研究合宿を実施する。															
	2年・ 3年次	地域と協働しながらグループ毎に課題解決型探究活動または地域研究を実施、「まとめ」を作成 中間発表会・最終発表会を実施。															
	<p>各教科・科目においても、地域資源を活かした授業を展開する。下記はその例である。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; padding: 5px;">国語</td><td style="width: 25%; padding: 5px;">・近松門左衛門の研究 ・さばえ近松文学賞の受賞作品の活用</td><td style="width: 25%; padding: 5px;">英語</td><td style="width: 25%; padding: 5px;">・鯖江の観光施設の英語看板作成</td></tr> <tr> <td style="padding: 5px;">地歴公民</td><td style="padding: 5px;">・王山古墳群、鯖江藩、三六連隊など、鯖江に関連する歴史教材の活用</td><td style="padding: 5px;">保健体育</td><td style="padding: 5px;">・体操のまち鯖江に関する研究</td></tr> <tr> <td style="padding: 5px;">数学</td><td style="padding: 5px;">・鯖江の神社にある算額の研究</td><td style="padding: 5px;">芸術</td><td style="padding: 5px;">・人形浄瑠璃の音楽体験 ・本校にある芸術作品の鑑賞</td></tr> <tr> <td style="padding: 5px;">理科</td><td style="padding: 5px;">・漆器やめがねなどの地元産業に関連する化学題材の活用</td><td style="padding: 5px;">家庭科</td><td style="padding: 5px;">・鯖江の保育園と協働授業 ・鯖江に住む外国人を招いての調理実習</td></tr> </table>	国語	・近松門左衛門の研究 ・さばえ近松文学賞の受賞作品の活用	英語	・鯖江の観光施設の英語看板作成	地歴公民	・王山古墳群、鯖江藩、三六連隊など、鯖江に関連する歴史教材の活用	保健体育	・体操のまち鯖江に関する研究	数学	・鯖江の神社にある算額の研究	芸術	・人形浄瑠璃の音楽体験 ・本校にある芸術作品の鑑賞	理科	・漆器やめがねなどの地元産業に関連する化学題材の活用	家庭科	・鯖江の保育園と協働授業 ・鯖江に住む外国人を招いての調理実習
国語	・近松門左衛門の研究 ・さばえ近松文学賞の受賞作品の活用	英語	・鯖江の観光施設の英語看板作成														
地歴公民	・王山古墳群、鯖江藩、三六連隊など、鯖江に関連する歴史教材の活用	保健体育	・体操のまち鯖江に関する研究														
数学	・鯖江の神社にある算額の研究	芸術	・人形浄瑠璃の音楽体験 ・本校にある芸術作品の鑑賞														
理科	・漆器やめがねなどの地元産業に関連する化学題材の活用	家庭科	・鯖江の保育園と協働授業 ・鯖江に住む外国人を招いての調理実習														

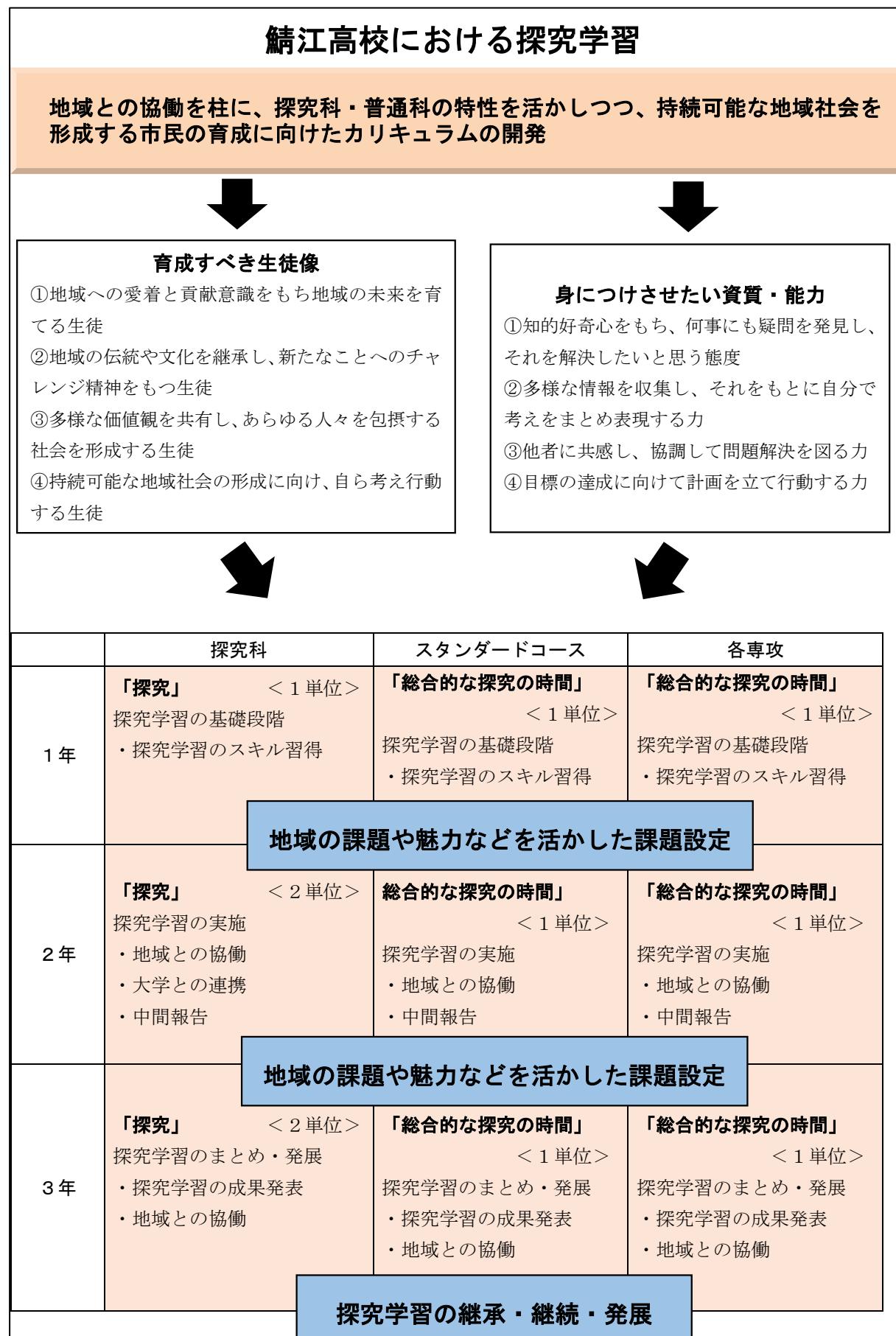
	<p>さらに、下記のような教科・科目横断的な内容を扱った授業も展開していく。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>授業内容</th><th>横断する教科・科目</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算額の研究と外国人観光客に向けた資料づくり</td><td>古典・数学・日本史・英語</td></tr> <tr> <td>鯖江藩の藩主が食べていたレシピ再現</td><td>古典・日本史・家庭科</td></tr> <tr> <td>鯖江におけるジャポニスムと Cool JAPAN</td><td>世界史・日本史・美術・英語</td></tr> <tr> <td>体操の技を力学的に解析</td><td>数学・物理・保健体育</td></tr> </tbody> </table>	授業内容	横断する教科・科目	算額の研究と外国人観光客に向けた資料づくり	古典・数学・日本史・英語	鯖江藩の藩主が食べていたレシピ再現	古典・日本史・家庭科	鯖江におけるジャポニスムと Cool JAPAN	世界史・日本史・美術・英語	体操の技を力学的に解析	数学・物理・保健体育
授業内容	横断する教科・科目										
算額の研究と外国人観光客に向けた資料づくり	古典・数学・日本史・英語										
鯖江藩の藩主が食べていたレシピ再現	古典・日本史・家庭科										
鯖江におけるジャポニスムと Cool JAPAN	世界史・日本史・美術・英語										
体操の技を力学的に解析	数学・物理・保健体育										
	<p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <p>本研究開発の成果を各教科・科目に広く普及させるため、授業改善推進委員会を設置し、月に1回以上開催する。そこでは、総合的な探究の時間の課題はもちろん、各教科・科目の授業の改善や地域教材の活かし方などについても議論を行う。この委員会での議論を学年会や教科会に普及させることで、全校体制で研究開発を行う。また、総合的な探究に時間については、主担当となる各クラスの副担任のミーティングを毎週行い、事務局から指導案を提示し、それについての議論を行う。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <p>初年度は特になし。ただし、2年目以降は新設される探究科（仮称）での学校設定科目「探究（仮称）」において、「総合的な探究の時間」を代替する。</p>										
⑨その他 特記事項											

## 研究開発のロジックモデル



## 地域協働事業組織図





## 令和元年度 地域協働事業 年間スケジュール

月	授業					総合的な探究(学習)の時間			学校行事
	国	地公	数	理	英	体	家	芸	
4									
5	王山古墳調査 (2年日本史B)								探究学習の スキル習得 ・プレゼンスキル ・アピスト、K-T法 ・資料力育成 など
6	日露戦争と大連 隊(3年世界史B)								福井県を調べる ・各自の興味関心、進路に 沿った課題について探究する ・福井県の現状を知る ・各市町を分担して調べる ・各市町をプレゼンする
7	鶴江街歩き (3年地理)								総合学習公開(16日) !学期に取り組んだ総合学習の成果を他校に 公開。 合わせて総合的な探究の時間の取組みについて 紹介。
8	ふるさとに関する詩 歌つくり(1・2年)								「世界津波の日」2019高校生サミット参加(10・1 1日) 3年生3名がエトナリー済み
9									
10									地域協働事業に関する講演会 鶴江市で地域活性化に取り組む方や市役所の方 などをお呼びして、講演会を実施する予定。
11	ふるさとに関する隨 筆つくり(3年生)								授業公開日 & 第1回運営指導委員会(上旬の中秋) 5限目にすべての教科で公開授業を実施。 本事業の運営指導委員会を開催し、中間評価を 実施。
12	詩歌と写真を会わ せてデジタルパン フレット作り(1年 生) 詩歌の翻訳文(2年 生)と相互評価(2年 生)								新聞記事を書こう ・メルカリアリテラシー ・文章表現力 など
1									沖縄と福井を比較しよう ・福井と沖縄の違いを知る ・沖縄について調べる ・調べた内容について旅行 で確認する ・プレゼンする
2									新井新社社説講座予定 11月の授業公開日週間に合わせて、授業改善に向け た研修会を実施。
3									教員研修会(上旬) 11月の授業公開日週間に合わせて、授業改善に向け た研修会を実施。

## 具体的な取組

### 鯖江市・鯖江商工会議所・鯖江高校 相互連携協定の締結

鯖江高校は、以前から「鯖江市デジタルパンフレット」の作成などを通して、鯖江市と協働で活動を行ってきた。令和元年度に鯖江高校が「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の採択を受けて、これまでの体制をより強いものとするため、鯖江市、鯖江商工会議所、鯖江高校で相互連携協定を締結し、今後さらなる協力をいただくこととした。

本協定の連携項目は下記の通りである。

- (1) 文化・教育・学術の振興、発展に関わる事項
- (2) 人材育成に関わる事項
- (3) まちづくりに関わる事項
- (4) 地域産業振興に関わる事項
- (5) その他、本協定の目的実現に関わる事項

具体的には、この相互連携協定により、「こんな方に授業をしてもらいたい」「こんな企業を紹介してもらいたい」となったとき、市役所や商工会議所を通じて紹介していただけたこととなった。これにより、特別授業等での講師選定など、様々な場面で本事業を支える関係性を構築できた。

また、この相互連携協定の内容を充実したものとするため、毎学期末、連絡協議会を実施した（3学期末は新型コロナウイルスの影響で個別に説明で対応）。この連絡協議会は、学期ごとの進捗状況の報告、ならびに本事業を進めるうえでの助言等をいただく貴重な機会となり、次年度以降も継続・発展させていく必要がある。



（参照 資料 地域協働ニュース第1号）

## 1年「総合的な探求の時間」の取組

実施報告書（福井県教育委員会提出資料より）

令和元年度 第1学年 総合的な探求の時間 実施報告書（抜粋）

福井県立 鮎江高等学校 全日制 課程 普通 学科

名 称	総合的な探求の時間	単 位 数	1
月 日	学 習 活 動	授業時数 (分)	学習形態
4/19	総合オリエンテーション・エンカウンター	50	一斉受講・グループ
4/26	コミュニケーションと対話	50	ペア
5/10	ナンバリングとラベリング	50	ペア
5/24	ブレインストーミングとK J法	50	グループ
6/7	進路適性検査	50	個人活動
6/14	ウェビングマップ	50	グループ
6/21	フィッシュボーン	50	グループ
7/10	新聞記事を読もう	50	ペア
7/11	進路学習（2時間）	50	個人活動
7/16	メディア・リテラシー	100	ペア・グループ
7/17	情報モラル講演会（2時間）	100	一斉受講
7/19	学校祭計画（色別集会）	50	一斉活動
9/18	進路講演会	50	一斉受講
9/20	1学期の振り返り	50	個人活動
9/27	「20年後の自分は何をしている？」	50	個人活動・グループ
10/4	新聞記事のテーマ設定	50	個人活動・グループ
10/11	保健講話	50	一斉受講
10/25	大学訪問（3時間）	50	個人活動
10/30	福井新聞社による特別授業	50	一斉受講・ペア
11/1	防犯教室	50	一斉受講
11/8	「インタビューの質問を考えよう」	50	ペア
11/15	新聞記事作成①	50	個人活動・ペア
11/22	新聞記事作成②	50	個人活動
12/6	新聞記事作成③	50	個人活動
12/13	新聞記事作成④	50	個人活動
1/10	新聞記事作成⑤	50	個人活動
1/17	新聞記事作成⑥	50	個人活動
1/30	新聞記事作成⑦	50	個人活動
2/7	進路ガイダンス（2時間）	50	一斉受講
2/14	新聞記事の読み合い	50	グループ